



## 家庭部が快挙！作品が全国大会と中四国大会で受賞

本校家庭部の谷口実楽乃さんと山田菜々美さんが作ったワンピースが全日本中学校技術・家庭科研究会の生徒作品コンクールにおいて、日本家政学会被服構成部会奨励賞を受賞し



**全国大会受賞作品とともに 中四国大会受賞作品とともに**ました。また、同じく清水彩里さんと南さくらさんが作ったワンピースが中四国の技術・家庭科生徒作品展において優秀賞を受賞しました。全国、中四国での受賞ですので、どちらの作品ともその出来映えが本当に素晴らしかったということです。本当におめでとうございます。

## 物を大切にすることを育みたい

湯梨浜中学校の職員室には毎日のように落とし物が届く。私たちは人間なので、はさみや定規などを〇〇室に忘れてしまっ



**学校で保管している落とし物の一部**たということはあると思う。昔から「物を大切にすること」の重要性はよく話されてきたので、落とし物は以前からあり、それを取りに来ない人も少なからずいたということだ。しかし、最近問題に感じているのは、落とし物の数とそれを取りに来ない人の割合の多さである。百均の店ができたはじめ、安価に物が手に入るようになってきたことはうれしいことだ。しかし、それにつれ、物を大切にできない人の割合も増えているようだ。「国が豊かになり物があふれる世の中になると、人が物を大切にすることはなくなっていく。そして、人と人との関係もそれにつれて希薄になっていくものである」という言葉がある。物を大切にすることは、人を大切にすることにつながるのだ。湯梨浜中学校の生徒には人も物も大切にできる人間であってほしいと願っている。

### 卒業式での写真撮影について

卒業式がいよいよ来週に迫ってきました。保護者の皆様におかれましては、お子様の晴れの姿を記録に残しておきたいとお考えのことと思います。しかし、様々なトラブルを避けるため、次の点にご協力をお願いします。

- ・卒業式の様子をビデオ、写真で撮影される場合は、他の参加者のご迷惑にならないようお願いします。
- ・卒業式後の学活につきましては撮影をご遠慮ください。
- ・撮影された映像、写真をSNS等にアップロードする場合は、必ず写っているすべての人の承諾を得るようにしてください。生徒の場合は保護者の方の承諾も必要です。
- ・生徒のスマートフォン持参は禁止しています。当日、生徒がスマートフォンで撮影をすることがないようにお願いします。保護者のスマートフォンであっても、撮影は保護者の方が行ってください。

ホームページで日々の学校生活の様子を紹介しています。

<https://www.torikyo.ed.jp/yurihama-j/>



# 保護者アンケート記述内容への返答（最終回）

（意見1）

駅伝に学校全体で取り組むのであれば、練習には多くの先生が関わった方がよいと思います。例えば、夏休みだけでも学年ごとに日にちを割り振り、スタッフ以外の先生も担当になった日だけは参加するなどしては…。一部の先生だけに負担がかたよるのも、保護者としては気になります。

（回答1）

鳥取県内の多くの学校は全校体制で駅伝に取り組んでいます。それは、他県のように陸上部だけで駅伝に出場できる部員数がないため、陸上部以外の生徒にも広く部員の募集を行い、通常の部活動とは別に部を結成しているからです。さらに、夏の暑い中での駅伝の練習を陸上部顧問だけで見るのは危険が多いため、教職員も通常の部活動とは別に複数顧問がついている部を中心に駅伝部顧問を選出しています。また、夏休み中は早い時間からの練習に対応するため、駅伝部顧問は勤務時間を他の職員とはずらして勤務を行っています。いろいろとご心配をいただき、本当にありがとうございます。

（意見2）

仕事の途中休みの報告をしなければならず3者懇談の時間を1日でも早く知りたいので、懇談時間決定の紙をできるだけ早く配布してほしい。生徒本人に責任感を持たせるため、紙代の節約のため等の理由があるかもしれませんが、保護者が出席しなければならない会については紙ベースでの配付をお願いしたいです。

（回答2）

紙媒体での配布をさせていただきます。保護者の皆様も〆切日までに希望日のご提出をお願いします。また、〆切日までに希望日の提出がなかった方については、空いている時間帯に入れて予定表を提出させていただきます。ご了承ください。

（意見3）

協同学習の方法を再検討していただきたい。

（回答3）

現在、日本の学校教育では「主体的・対話的で深い学び」を目標に学校教育を行っています。以前のように、先生が生徒に教える教育ではなく、生徒どうしの学びを教師がコーディネートする教育が変わってきているのです。生徒どうしが関わり合って、iPadや教科書等を使って、主体的に、そして対話的に学びを行うのです。しかし、ただ自分たちで調べて勉強しなさいと言うだけでは学習は上手いきません。そこで、その学習をスムーズに進めるための方法（しかけ、声かけ）のひとつが協同学習なのです（**太字は国が求めている学びです**）。

## ①主体的な学び

**「生徒自身が学習活動を見通し、振り返り、課題を解決していこうすること」**

（協同学習では）生徒たちが主体的に取り組むために、学習に興味・関心を持つことができるよう導入に力を入れることを大切にしています。そして、単元全体においても、1時間の授業においても、生徒が達成できたかどうか分かりやすい目標を設定し、その目標を達成するためのプロセスも明確に示します。もちろん、授業の振り返りも大切な要素のひとつとして毎時間行います。

## ②対話的な学びの特徴

**「他者と協働し学びあいをすることによって、自身の考えを広げ深めること」**

（協同学習では）協働に「みんなで分かるようになるろう」という心（気持ち）が加わると協同になります。そして、協同学習においては「クラスの仲間全員が自分の味方」という環境を、授業においてもつくりあげることを目指して授業を行っています。要するに、対話的な学びをスムーズに行えるための友だちとの信頼関係を、学級担任と授業者が普段の生活、授業においても意識的に養っていくのが協同学習なのです。

## ③深い学びの特徴

**「生徒のものの見方・考え方を促進させて、理解力や思考力をあげること」**

（協同学習では）個人の考えをまとめた後に、グループ内の人と意見を交換し、自分の考えを改善する（深める）という学習法がよく行われます。現在は、協同学習にかかわらず行われている学習法ですが、元をたどっていくと協同学習の手法だそうです。また、グループ内で分担任して調べ学習を行い、その内容を共有して深めあったりする学習では、分担任したことによって削減された時間を思考を深める時間にあてることができるという利点もうまれます。

このように、協同学習は国が求める「主体的・対話的で深い学び」を実現するための方法として本校が取り入れている学習法です。まだまだ取り組みが不十分のため、国が求める学びには至っていないかもしれませんが、今後もさらに取り組みを充実させていきたいと思っています。

その他にいただきました意見につきましても、今後の学校運営にいかしていきたいと思いません。いろいろなご意見、ご質問、ありがとうございました。